



会長退任の辞

安 川 第 五 郎

或る経営者は会社経営は学問や事例は何の役にも立たぬ。苦難の経験から出る第六感の示す方向に突進すべきであると強調するのをしばしば耳にするが、戦前に於ては正にその通り、然し現代凡ての方向に科学技術の侵入を余義なくせられた時代に経営丈が旧態依然ですむ筈はない。例えば営業方面に於ても商品の売行の動向、これに應ずる工場に於ける材料在庫の算定関係者の六感丈では適格な判定は不可能、茲処に幸にして高等数学の一応用として最近発展して来たORがその重きをなす所以である。私は先年岸道三氏の逝去後会員の推薦によりOR学会の会長を請けたが以上述べた様に経営の近代化と極めて密接な関連あるこの専門学の重要性認識に於ては人後に落ちぬ自信を持って屈して拝し、数十年の過去に於て僅かに貧弱な頭につめ込んだ高等数学も今更復活の力を欠き、且幸に理解力は左程おとろえて居なくとも記憶力は極度に減退し、折角届けられた毎月発刊の雑誌や論文も全く手がかず、題目を見て是非理解し度い熱望はおきても手がかず、常に元来貧弱な頭と老朽とを嘆くのが落であった。この状態で新進の会員を励ます事そのことが見当はずれと考へ、一日も速かに然る可き適任者を得て会長を譲り度く、役員各位にも相談をつづけて居た処、此度うってつけの会長候補を得て、幸に去る会員総会に於て新会長を迎えて愈々学会の眞の使命達成に一層発展する事となり、私も全く安堵の胸をなでおろす感を覚える次第である。今後は電子計算器の発達と此OR等の結び付きについても研究が進められるだろうし、愈々ORの実際面に及ぼす力が益々増進すると共に我々OR学会の目覚ましい発展が期せられる訳。願はくば会長始め役員会員挙ての御協力により其域に到達の期の速ならん事を。以上所懐の一端を述べて辞任の御挨拶とす。

安川氏名誉会員に推薦

安川第五郎氏は、本学会の第5代会長として1962年から1964年まで3年間、学会の発展に御尽力いただきました。学会理事会は同氏の功績をねぎらうため名誉会員に推せんすることをきめ、去る5月14日の1965年度総会にはかったところ満場一致で可決いたしました。ここに御報告をかねて、同氏の御尽力に感謝の意を表したいと思ひます。

明治19年6月2日生

現住所 東京都世田谷区玉川田園調布2丁目823番2号

本籍地 同上

略 歴

- | | |
|---------|-------------------------|
| 明治45年7月 | 東京帝国大学工科電気工学科卒業 |
| 大正1年8月 | 久原鋳業(株)入社 |
| 2"11 | アメリカウエスチングハウス電機製造見習生で渡米 |
| 3"9 | 帰朝 |
| 4"7 | 合資会社安川電機製作所 無限社員 |
| 8"12 | (株) " 常務 |
| 昭 11"2 | " " 取締役社長 |
| 17"2 | 電気機械統制会会長 |
| 20"9 | 退職 |
| 21"2 | 石炭庁庁官 |
| 21"9 | 公職追放により同上免職 |
| 21"11 | (株)安川電機 取締役社長 |
| 24"3 | " " 取締役会長 |
| 26"8 | 公職追放解除 |
| 30"5 | (株)安川電機 会長辞任 |
| | " 相談役 |
| 30年5月 | 日本銀行政策委員会委員 |
| 31"6 | 日本原子力研究所理事長 |
| 31"11 | 日本銀行政策委員会委員辞任 |
| 32"10 | 日本原子力研究所理事長辞任 |
| 32"11 | 日本原子力発電(株)社長 |
| 33"5 | (株)安川電機取締役会長 |
| 35"5 | 九州電力(株) " |
| 35"12 | 九州石油(株)相談役 |
| 37"11 | 日本原子力発電 会長 |
| 38"2 | オリンピック組織委員会会長 |

その他の公職

- 日本動力協会会長
- 日本工業クラブ専務理事
- 九州山口経済連合会会長
- 文部省国語審議会委員
- 日本経済調査協議会評議員
- 経済企画庁九州地方開発審議会会長
- 日経連顧問